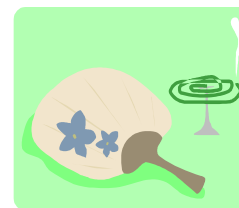


ニュースレター



No.2

発行日 2010年7月

1 ご回答ありがとうございました

暑中お見舞い申し上げます

皆様のご協力により、フォローアップ調査も無事に終わることができました。今回も大変貴重な情報をご提供くださったことに対し、心より感謝申し上げます。

今回の調査では、1,626名からご回答をいただきました。現在、お答えいただいたアンケートの集計作業をおこなっております。

調査結果の一部を速報としてお知らせいたします。今後も、アンケートの回答および、皆様のお名前やご住所といった個人情報、厳重に管理しつつ、現代日本の家族の研究に役立てて参ります。

引き続き、フォローアップ調査にご協力くださいますよう、お願いいたします。

2 この1年間での生活の変化 2009年～2010年にかけて

第1回調査から、フォローアップ調査までの1年間に、ご家庭やお仕事で、大きな出来事や変化を経験されたかをうかがいました。

結婚なさった方	0.8%
ご家庭のことで変化があった方	42.3%
お仕事に変化があった方	再就職 3.9%
	転職や出向など 15.6%



2009年 こんなことがありました…

3月 定額給付金の支給

WBC(ワールドベースボールクラシック)連覇

4月 高速道路「1000円」スタート

5月 新型インフルエンザ流行
裁判員制度スタート

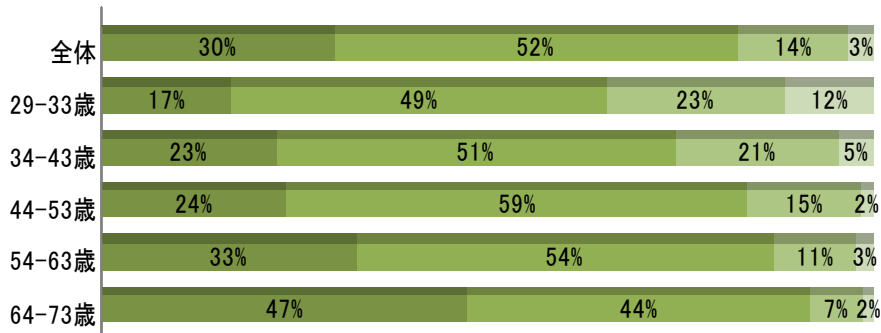
8月 鳩山内閣発足

3 「婚活」についての意見

近年、結婚にむけての積極的な取り組みが「婚活」と呼ばれて注目されています。今回の調査では、この「婚活」に対する意見をうかがいました。

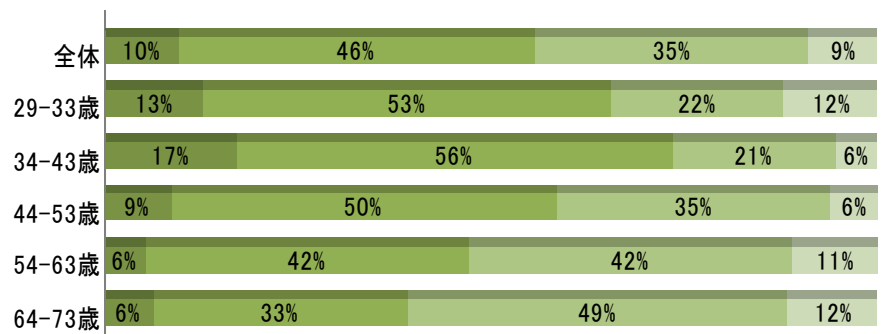
■ 良いことだ ■ まあ良いことだ ■ あまり良いことではない ■ 良いことではない

親や親戚に紹介してもらおう



若い世代ほど、親や親戚の紹介には否定的です。

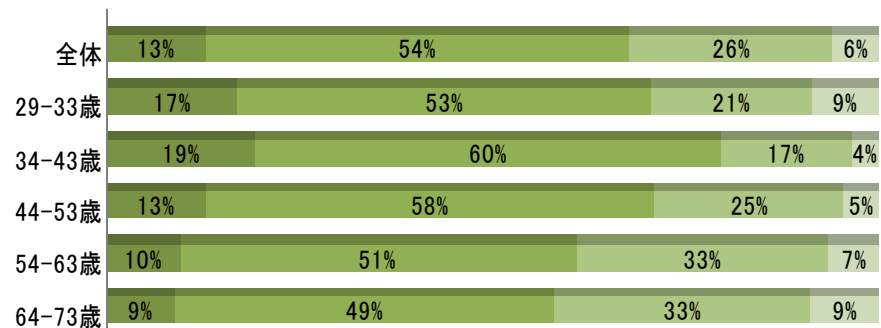
結婚相談所や結婚情報サービスに登録



結婚サービスへの登録や、パーティーへの参加は、30代、40代が肯定的です。

「婚活」で著名な中央大学教授山田昌弘氏にうかがいました

お見合いパーティーに参加する



婚活に関しては、独身の当事者以上に、親の世代の関心も高いことがわかるデータです。

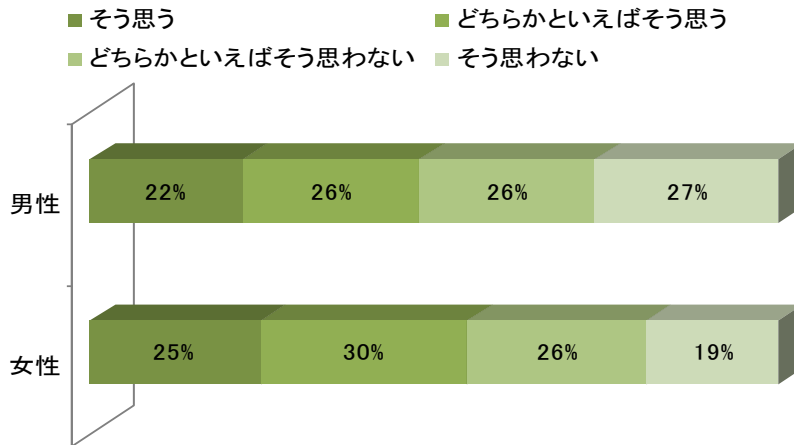
年長の世代は若者に比べ、結婚相談所や情報サービスの利用には消極的で、親や親戚の紹介に期待しているようです。

4 夫婦別姓についての意見



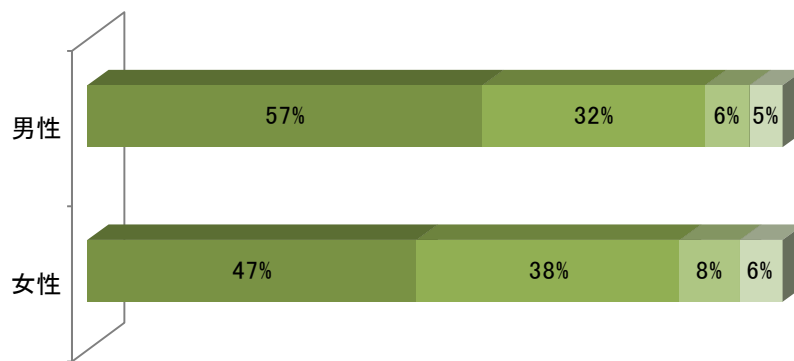
夫婦別姓についてのさまざまな意見に対する賛否をうかがいました。

当人たちが希望する場合には、夫婦別姓を認めるように、法律を変える方がよい



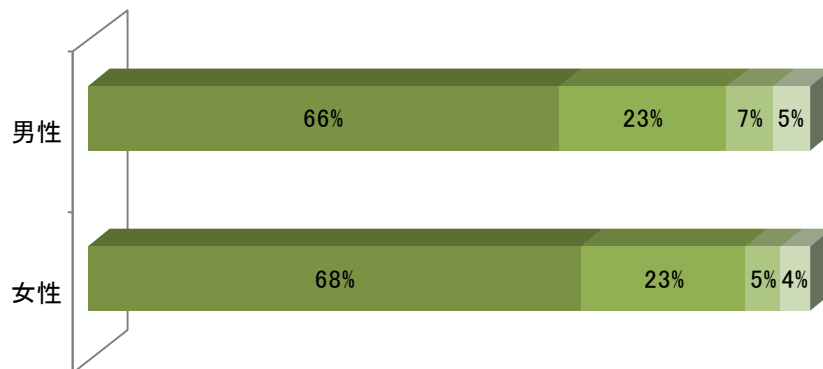
夫婦別姓を認める法改正には、肯定と否定が、ほぼ2分しています。

同じ名字を名乗ると、家族の一体感が強まる



男女ともに、同姓だと、一体感が強まると感じる人が多いようです。

夫婦の名字が別々だと、子どもの名字をどうすべきか混乱する

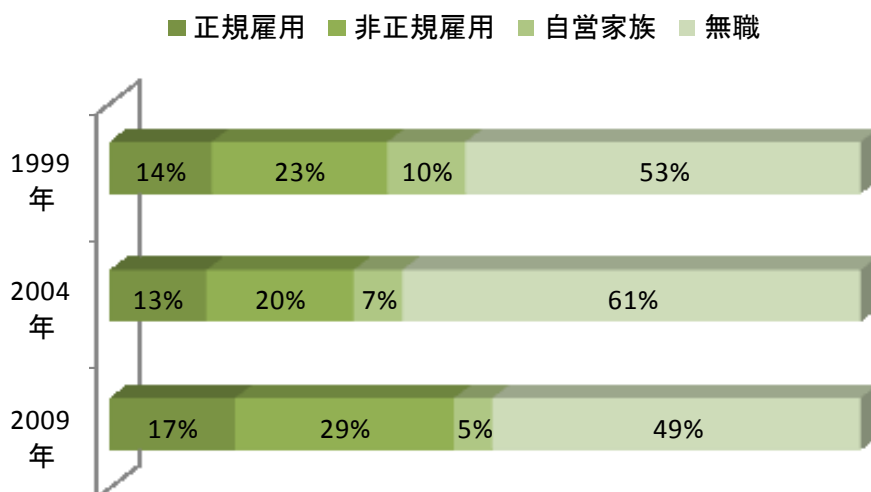


夫婦別姓では、子どもの名字について混乱している人が多いようです。

5 この10年間の変化—過去3回の調査結果から

この10年間で、6歳以下の小さな子どもをもつ母親の働き方はどのように変わったのでしょうか。NFRJの3回の調査からみてみました。

(NFRJでは、今回のフォローアップ調査とは別に、1999年から、これまで5年ごとに3回の調査を行ってきています)



就業率が若干上昇し、とくに非正規(パートなど)での就業が若干増えています。

来年1月頃に郵送でアンケート用紙を送らせていただきます。
次回も短いアンケートの予定です。
ご協力いただけますよう、よろしくお願いいたします。

★ 転居なさった時は、お手数ですが、下記までお知らせください。

社団法人 中央調査社
〒104-0061 東京都中央区銀座6-16-12
0120-48-5351 (フリーダイヤル)
<http://www.crs.or.jp>

<実行委員メンバー>

西野 理子 (東洋大学) <委員長>
永井 暁子 (日本女子大学) <事務局長>
田中 慶子 (家計経済研究所)
田中 重人 (東北大学)
筒井 淳也 (立命館大学)
松田 茂樹 (第一生命経済研究所)
水落 正明 (三重大学)
三輪 哲 (東北大学)
保田 時男 (大阪商業大学)



本調査でお送りする郵便物には
このロゴがついています。